

三菱商事：小規模農家の自立支援プロジェクト

三菱商事は、2008年に米州開発銀行（IDB）との間で締結した「中南米に於けるCSR活動の協力に関する覚書」に基づき、当時、ブラジル・バイア州南部でIDBが支援していたオデブレヒト・グループ傘下のオデブレヒト財団が実施する「小規模農家の自立支援」活動への参画・支援を2009年度より開始しました。更に2012年からは既存プロジェクトの継続支援に加え、3年間の予定で新規2プロジェクトへの支援も始まり、同州南部の環境保護地域にある農業訓練校（Casa Familiar Rural）等を通して周辺の小規模農家の自立支援と環境保護を意識した「持続可能な農産品の生産及び販売」等に関する指導・教育を行い、これら生産・販売ノウハウを地域全体に普及していくことを目指しています。

Casa Familiar Ruralとは？



Casa Familiar Ruralで学ぶ若者たち



Casa Familiar Ruralの授業風景



Casa Familiar Ruralに併設されたデモ農場

Casa Familiar Ruralでは、農村出身の若者たちが地域のリーダーとなるべく、環境保護を考慮した営農技術を習得しています。生徒はCasa Familiar Ruralで1週間指導を受けた後、2週間は自身の村に戻って学習内容を実践するプログラムを3年間継続し、それぞれの出身地域でノウハウを普及することをミッションとしています。Casa Familiar Ruralの重要な取り組みの一つに森林伐採防止に関する活動があり、若者を通して地域コミュニティに森林を大切さを伝えることで、農民による焼畑農業が減少し、森林保護につなげることが可能になりました。

三菱商事：小規模農家の自立支援プロジェクト

支援先の農業訓練校の活動内容

Casa Familiar Rural Igrapiúna (CFRI)



農業実習風景



養蜂実習風景

バイア州イグラピウナ市周辺6地方自治体にある31農村の小規模貧困農家の次世代を担う14～20歳の若者を対象にカカオ・生ゴム・パーム・家畜等の生産技術・生産管理などに関する技術指導が実施されており、2013年は約90人が訓練を受けています。若者たちはCFRIで学んだパーム椰子や天然ゴム、カカオの生産とマーケティングなどの技術を自らの出身農村へ普及することをミッションとしています。これらの普及活動で間接的に85世帯(約425人)の地元住民が恩恵を受けることになります。

Casa Familiar Rural Pres. Tancredo Neves (CFR-PTN)



CFR-PTNの生徒たち

バイア州プレジデンテ・タンクレード・ネヴェス市周辺9地方自治体にある99農村地帯で小規模農業を営む貧困家庭の子どもたち(14～21歳)134人を対象に土壌管理・食品技術・家畜生産・花卉生産など農業技術に関する教育・指導を実施、これらの若者が各自農村で技術普及に努めれば、間接的に2,100人の周辺住民が恩恵を受けることになります。同校は2009年にバイア州教育局より農業技術専門学校として認可を受けており、生徒はブラジル教育省が要請する中等教育カリキュラムの履修も可能となりました。

Casa Familiar Agroflorestal* Nilo Peçanha (CFAF)

生徒が製作している
伝統工芸品キロンボーラ地区の
伝統芸能

バイア州ニーロ・ペッサーニャ市で森林地帯に居住する小規模農家や漁業従事者、キロンボーラ(アフリカ系ブラジル人居住地)出身者の若者向けに農林業技術訓練校を開校し、生活水準の向上や地域の発展を目指し、農林業の技術に関する教育・指導を行っている。特にキロンボーラ地区では、アフリカ系ブラジル人が独自の文化を守り、コミュニティを形成していくことも目的の一つに掲げ、伝統文化を継承しつつ、観光や伝統工芸品販売でこれらの地域住民の自立を支援、訓練を受けた若者が各コミュニティのリーダーとして地域振興を促して行くことが期待されています。